

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容の理解と方法Ⅱ Understanding and method of nursing contentsⅡ		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程、教職課程(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ピアノ演奏法Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程(幼稚園教諭二種)、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ	講義棟3階	月・水・木・金		授業中に指示します
授業の概要				
<p>子どもの成長過程の中で、子どもと音楽との関わりは欠かせないものであり、音楽的な豊かな感性を育てるためには、保育者として、子どもたちの音楽的な成長を促すための表現活動の提供が必要となる。この授業では、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽の基礎的な知識や技術を身につけ総合的な音楽の理解を深める。また、保育士、幼稚園教諭二種の資格取得を目指し、保育現場で展開できる表現活動のための技術を習得する。</p>				
授業の目標				
<p>①音楽の基礎理論を鍵盤奏法と関連付けて、読譜力を身に付け、演奏することができるようにする。 ②基本的な伴奏法とベースライン奏法を学び、簡単な伴奏で幼児曲を伴奏することができるようにする。 ③各年齢に適した教材(日常のうたや季節のうた)を選定し、歌唱指導と弾き歌いを実践することができるようにする。 ④子どもの音楽的成長と発達を配慮した指導計画を立て、発達に応じた表現活動を展開することができるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>講義(音楽理論と音楽的成長と発達)を含んだ演習科目である。音楽理論は講義形式(必要に応じて鍵盤楽器を使用)で行い、演習では、グループ歌唱と各自指導計画を考え、幼児曲の弾き歌いを実践し、総合的な音楽表現の知識と技術の習得をする。</p>				
学習の成果(学習成果)				
<p>①日常や季節のうたを選曲し、その伴奏を用いて弾き歌いを行うことができる。 ②音楽的な表現活動の実践を展開するために、教材の選定と指導内容の計画を立案することができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意点			
第2回目	楽譜の理解と譜読みについて ソルフェージュ演習			
第3回目	音楽理論：音符と休符、拍子とリズムについて① 歌唱：季節のうたと指導法			
第4回目	音楽理論：音符と休符、拍子とリズムについて② 歌唱：日常、行事のうたと指導法			
第5回目	音楽理論：音階と調 旋律と伴奏について			
第6回目	幼児曲演習：基本的な伴奏法			

第7回目	幼児曲演習：簡易伴奏法とベースライン奏法	
第8回目	乳幼児の音楽的成長と発達 弾き歌いと歌唱の実践に向けて①	
第9回目	乳幼児の生活と遊び 弾き歌いと歌唱の実践に向けて②	
第10回目	感性と表現の教育、保育者の役割	
第11回目	表現活動の指導法①（歌唱表現活動の導入）	幼児曲演習：各グループレッスン①
第12回目	表現活動の指導法②（歌唱表現活動の実践）	幼児曲演習：各グループレッスン②
第13回目	表現活動の指導法③（指導計画の実践）	幼児曲演習：各グループレッスン③
第14回目	弾き歌いと歌唱表現の実践：グループ歌唱と弾き歌いの発表	
第15回目	幼児曲の指導法と弾き歌いの実践	
事前・事後学習	事前に授業内容について提示し、譜読みをしておくこと。また、授業で学んだことの振り返り、幼児曲の伴奏は常に練習をすること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	学習意欲を持って授業に参加する。
レポート	30%	提出日（第8、9、10回目授業日）にきちんと提出されている。 表現活動の指導計画について、年齢に適した教材の選定と内容になっている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	歌唱表現での音楽的技術によって評価する。
その他		
教科書と参考図書		
<p>テキスト：幼児のための音楽教育（教育芸術社） 随時、プリントや楽譜などを配布する。 参考図書：幼児曲集（様々な出版社から幼児曲の楽譜が出版されている）</p>		
履修上の留意点・ルール		
<p>●実務経験（職種：高校音楽教諭、職歴：通算10年） 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、飲食は禁止とし、MR I（音楽室）は土足厳禁である。 授業内容によっては課題を提出するので、提出内容、期限等は必ず守ること。 課題曲の予習（譜読み）、復習（練習）が必要である。</p>		